

報告書

講演とシンポジウム「家に帰ろう part2」 住み慣れたわが家で療養しませんか？

参加者：約250名で会場は、ほぼ満員の状況。

構成は2部形式。1部は仙台往診クリニック 川島孝一郎院長より基調講演を、2部はシンポジストに、市内で在宅診療を専門としている「いしが在宅ケアクリニック」の伊藤由恵医師。それに四季の郷 訪問看護ステーション「ベル」管理者の松田緑看護師を加えてシンポジウムに移行。コーディネーターは市川悦子。

川島医師からは、皆さんに配布した「最後まで家で暮らせる処方箋」の資料を参考にしながら、在宅で療養できる事、在宅で最後を迎える事が可能な事を非常に解かりやすく、具体的に話していただいた。又、「ピンピンコロリ」の例を通して人は自然の摂理に従って年齢と共に、病と共に、徐々に衰えていくという事。そして、人は「最後は在宅で」とのぞんでいるにもかかわらず大半はそうでないミスマッチは、「家に帰せない」と「家に帰られない」の思い違いであり、介護や福祉制度を熟知し駆使する事により負担をかけずに十分なサービスの提供ができる等等、基本からも言及していただいた。

伊藤医師と松田管理者には在宅で看取る事について、経験談を通して話していただいた。

今回はホール入り口に在宅医療に関するブースを3カ所設置。ひとつは四日市看護医療大学の学生によるもの。ひとつは訪問看護の相談コーナー。ひとつは四季の郷「看取り」への取り組みを実施。

結果、今回の「家に帰ろう part2」が目標とした「参加者を介護する世代や若者に広げたい」という事については達成した（アンケート参照）と考える。又、「part1」で出された疑問の主な点については、講演やシンポジウムのお話の中でしていただいた。アンケートについては、財団のものをしたので、講演とシンポジウムを終えての疑問や要望を掌握できていないが、その後、何人かの方からいただいたお電話等により、よく理解していただけたと推測している。

家に帰ろう Part 2

住み慣れた我が家で療養しませんか？

●日時／平成24年 **10月14日(日)** 13:30～
【受付／13:00】

●場所／四日市総合会館8階

入場無料
(申し込み優先)

～講演とシンポジウム～

「我が家で療養する！」が街の医療の姿を変えます。

安心して「在宅医療」を選択できるお話Part2を昨年にひきつづき企画しました。

●**基調講演：仙台往診クリニック 院長 川島 孝一郎**



●川島 孝一郎さんプロフィール

1996年 仙台往診クリニックを開院。

仙台市及び周辺市町村を対象に、寝たきり老人や難病・がん患者などの在宅医療を行う。

「終末期医療に関する調査等検討会」他 厚生労働省の多くの委員を務める。四日市市在宅医療推進計画を指導。

シン
ポ
ジ
ス
ト

いしが在宅ケアクリニック 四季の郷 訪問看護ステーション「ベル」
医師 伊藤 由恵 管理者 松田 緑

おわりに

四日市看護医療大学
学長 河野 啓子

お申し
込み方法

TEL:059-361-7537 FAX:059-361-7538

主催：いすず会グループ 在宅医療シンポジウム実行委員会 (代表 市川 悦子)

後援：四日市市・四日市看護医療大学 協賛：シルバーケア四季の郷

この事業は**勇美財団**の助成を受けております。

いすず会グループ 在宅医療シンポジウム実行委員会 (代表 市川 悦子) ●お問い合わせ／059-361-7537